

倉岳の大自然を満喫 天草Xアスロン大会



▲シーカヤック、SUPをこぎだす選手たち

7月17日、倉岳えびすビーチをメイン会場に“天草Xアスロン大会2016”が開催されました。今年で5回目となる今回は、全国から135名が参加。Xアスロンは、シーカヤックまたはスタンドアップパドルボード(SUP)、マウンテンバイク、トレイルラン、パラグライダーの4つのアウトドアスポーツを個人またはチームで競技するもの。参加者は、倉岳の海、山、空の大自然を駆け巡りレースを楽しんでいました。

タコさんいっぱい獲れるといいな 大浦地区振興会「タコつぼオーナー投入式」



▲タコつぼに番号を記入する参加者

6月26日、有明町の大浦漁港で「タコつぼオーナー」の投入式が開催され、抽選で選ばれた20組60人が参加しました。大浦地区振興会が交流人口の増加などを目的に平成20年度から実施しているもの。参加者は、タコつぼ2個にペンキで名前や番号を記入した後、漁師が海にタコつぼを投入するようすを見学しました。8月28日には引き上げ式を行う予定。参加者は、「いっぱい獲れるといいな」と話していました。

五穀豊穡を願って 高浜地区虫追いまつり



▲神主のお祓いを受けるようす

6月26日、天草町高浜地区で虫追いまつりが開催されました。このまつりは古くから豊作の祈願祭として伝えられ、毎年、高浜地区振興会が開催しているもの。この日は、高浜八幡宮で神事が行われた後、地区住民40人が豊作を願って、五穀を表す五色の旗をなびかせ、虫を追い払うホラ貝、鐘、太鼓の音を鳴らしながら、水田の周囲約4kmを練り歩きました。

自慢ののどを競う 牛深ハイヤ節全国大会・魚貫草刈り唄全国大会



▲牛深ハイヤ節総合グランプリ
山形好香さん

▲魚貫草刈り唄総合優勝
後藤くみ子さん

6月25・26日、牛深ハイヤ節の唄を競う「第16回牛深ハイヤ節全国大会」、魚貫町に古くから伝わる唄を競う「第2回魚貫草刈り唄全国大会」が牛深総合センターで開かれました。それぞれ年代ごとに4つの部門に分かれて自慢ののどを披露し、競い合いました。牛深ハイヤ節は、牛深町の山形好香さんが総合グランプリに、魚貫草刈り唄は、熊本市の後藤くみさんが総合優勝に輝きました。



▲原画を制作した栖本小学校の児童



▲原画を制作した栖本中学校の生徒

まもろう！地域資源 つなげよう未来へ！

小中学生が環境美化啓発看板の絵を提供

栖本地区振興会が、環境美化活動の一環として啓発用の看板12枚を製作しました。この看板は、同振興会が地元の小中学生にも環境保全に関心を持ってもらおうと原画の制作を依頼。この原画をもとに「まもろう！地域資源 つなげよう未来へ！」と書いた看板を製作しました。7月7日には、同振興会から原画を提供した栖本小学校児童6人と栖本中学校の生徒6人に感謝状が贈られました。製作した看板は、環境美化を呼びかけるために、町内の川沿いに設置されました。

このほかにも同振興会では、年2回ホタルが息する河内川の清掃を行っています。この清掃作業には、同中学校の生徒も毎回参加しており、2年の緒方彩子さんは、「私たちの飲み水になっている河内川へのポイ捨てが減ってほしい」と話していました。

多彩な“うちょう蘭”を楽しむ 山野草展



▲うちょう蘭

▲観賞する来場者

6月25・26日、河浦町の総合交流施設“愛夢里”で「山野草展」が開催され、“うちょう蘭”150鉢が展示されました。地元の河浦蘭愛好会主催で、今年で10年目。うちょう蘭は小柄な多年草で、純白色や紫色など小さな花を鈴なりに咲かせるのが特徴。同会代表の松川誠治さんは、「原種もきれいだが、交配すると花が咲くまで3年かかり、どんな花が咲かわからないのが楽しみ」と話していました。

願いを込めて飾り付け 星光園七夕飾り



▲飾り付けを行う利用者と園児

7月1日、北原町の障がい者支援施設「星光園」で、施設利用者40人と本渡北幼稚園4歳児25人とその保護者が七夕飾りを行いました。障がい者とのふれあいを通して、子どもたちに障がいへの理解を広めてもらおうと、年間交流事業のひとつとして行っているもので今回で15回目。利用者と園児が色紙でさまざまな飾りや短冊を作った後、4本の笹に願いを込めて飾り付けを行いました。